

聖書日課 『からし種』 2023.5.14-5.21

<p>5月14日 (日) I 列王 3章</p>	<p>「わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える」(12節)。神は夢の中でソロモンに現れ、「何事でも願うがよい。あなたに与えよう。」と言われた。彼が求めたのは正しくイスラエルの民を政どる知恵だった。自分の立場をわきまえた素晴らしい要求だと思う。神も感心され、求めている富も栄光も長寿も与えられた。</p>
<p>15日 (月) I 列王 4章</p>	<p>「ソロモンはイスラエル全国に十二人の知事を置いた。彼らは、王と王室の食糧を調達した」(7節)。ソロモンは全イスラエルの王となり、全く類を見ないほど繁栄していく。これは彼が神の声に対して知恵を求めた結果である。神が彼に『求めなかったもの、富と栄光も与える』と宣言された通りになっていく。しかし、これがその後仇となっていくのだ。</p>
<p>16日 (火) I 列王 5章</p>	<p>「神はソロモンに非常に豊かな知恵と洞察力と海辺の砂浜のような広い心をお授けになった」(9節)。この時代は争いがなく非常に平和だったようだ。なぜだろうか？力(武力)で自分の思いを成し遂げようとせず、人々(民衆)を神からの知恵で統治する事、民の事をいつも大切に思う心が、周辺の国にも伝わり平和へと繋がっていく事を覚えたい。</p>
<p>17日 (水) I 列王 6章</p>	<p>「あなたが建てている神殿について、もしあなたがわたしの掟に従って歩み、わたしの法を実行し、わたしのどの戒めにも従って歩むなら、わたしは父ダビデに告げた約束をあなたに対して果たそう」(12節)。これは神がソロモンに語った言葉。神は彼がこの約束を守るなら、イスラエルを見捨てることはない、と。しかし、事は悪い方へ向かっていく。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.5.14-5.21

<p>18日 (木)</p> <p>I 列王 7章</p>	<p>「ヒラムは知恵と洞察力と知識に満ち、青銅にかけてはどんな仕事にも通じていた」(14節)。ソロモンは13年かけて壮大な神殿を完成させた。さらに神殿に必要な備品や祭具の製作にも最善を尽くした。その仕事には父の代から青銅工芸の職人であったヒラムを連れて来させこれに当たらせた。人に才能を与え、用いさせるのも神の業である事を覚えたい。</p>
<p>19日 (金)</p> <p>I 列王 8章</p>	<p>「ソロモンは、イスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、両手を天に伸ばして、祈った」(22-23節)。ソロモンの祈りに驚かされる。信仰深く順調な時だけでなく、罪を犯した時も、強国に捕虜として連れて行かれても、その場で罪を離れて神に立ち帰り神殿の方向に向いて祈る時、「罪を赦してほしい」、また「異邦人の祈りも聞いてほしい」と祈っている。</p>
<p>20日 (土)</p> <p>I 列王 9章</p>	<p>「わたしは与えた土地からイスラエルを断ち、わたしの名のために聖別した神殿もわたしの前から捨て去る」(7節)。これは神が再びソロモンに現れて言われた言葉。祝福と災いの言葉が語られた。残念ながら、この後ソロモンは多くの妻、側室を得て、異教の神々を受け入れてしまう。彼の息子たちも同じ罪を犯し、神の災いが降りかかることとなる。</p>
<p>21日 (日)</p> <p>I 列王 10章</p>	<p>「あなたをイスラエルの王位につけることをお望みになったあなたの神、主はたたえられますように」(9節)。シェバの女王がソロモン王に拝謁に来た。交易を結ぶ相手を見定めるためである。ソロモンの知恵と富を目の当たりにした女王は「主なる神」をたたえた。女王は外国人であったが、ソロモンを王として立てている方がどなたであるかを知っていたのである。</p>